

基調講演

実践 アクティブ・ラーニング

講義科目に

どのようにアクティブ・ラーニングの手法を 組み込むのか

いまさら聞けないアクティブ・ラーニング。

教育現場では、アクティブ・ラーニングという言葉やイメージが先行し、どう扱っていいのかわかり、疑問を持ったまま投げ出す先生も存在します。

講演のキーワードは3つ。

問題解決の中での学び【学生】、目標との対応・思考の「間」【教員】、そしてカリキュラム全体での調整【組織】です。

教育現場での実例を基に実践で役立つアクティブ・ラーニングの活用方法を学びます！

講演概要

アクティブ・ラーニングの経験がない、実践してみたいがやり方がわからない、導入したものの効果が実感できない。そんな悩みを持つ方は多いのではないのでしょうか。アクティブ・ラーニングという言葉が先行し、現場では対応が追いつかない。効果的な授業手法が身に付かない等。

そこで、あらためてアクティブ・ラーニングの意味を整理し、共に学び合う機会を設けました。

アクティブ・ラーニングの基本をおさらいし、教育現場での現状を確認します。

また、アクティブ・ラーニングを講義科目にどのように組み込んでいけばいいのか、指導のポイントや学習意欲向上のための実効力を習得します。

山地弘起先生 プロフィール概要

独立行政法人大学入試センター試験・研究副統括官

専門領域は、教育心理学、身体心理学。主体的学びに向けた教育開発とその評価研究。

1959年生まれ。東京大学法学部政治コース卒業。1989年同大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学（教育心理学専攻）。東京大学教育学部助手、メディア教育開発センター助教授、オックスフォード大学上級共同研究員、長崎大学大学教育イノベーションセンター教授等を経て、2016年4月より現職。教育学修士。PhD（身体心理学）。早稲田大学、東京女子大学非常勤講師。

<主な著書>

- ・「かわりを拓くアクティブ・ラーニング—共生への基盤づくりに向けて—」
（編著）ナカニシヤ出版
- ・「学生の納得感を高める大学授業」（共編著）ナカニシヤ出版
- ・「授業評価活用ハンドブック」（編著）玉川大学出版部 他多数